

研究種目：基盤研究 (B)
研究期間：2007～2010
課題番号：19320011
研究課題名 (和文) ポタラ宮所蔵スティラマティの俱舎論注釈書『真実義』の新出梵文写本研究
研究課題名 (英文) A Study of the recently found Sanskrit manuscript of *Tattvārthā*, the commentary by Sthiramati on the *Abhidharmakośabhāṣya* kept in Potala Palace
研究代表者
小谷 信千代 (ODANI NOBUCHIYO)
大谷大学・文学部・教授
研究者番号：40141494

研究代表者の専門分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、印度哲学・仏教学

キーワード：仏教学、仏教写本、インド仏教、サンスクリット、アビダルマ

1. 研究計画の概要

チベットのポタラ宮に所蔵されており、近年現存することが確認されたスティラマティの俱舎論注釈書『真実義』サンスクリット写本を解説する。

『真実義』サンスクリット写本を校訂するには、関連するアビダルマ文献を多く参照する必要がある。それら諸文献の資料作成・整理作業を研究の基礎作業と位置付け、作成した研究資料をひろく研究者に公開する。

2. 研究の進捗状況

すでに散逸したと考えられてきたスティラマティの俱舎論注釈書『真実義』サンスクリット写本が、チベットのポタラ宮に保管されてきたことが判明した。本研究は『俱舎論』読解に必要不可欠な『俱舎論』諸注釈書の中でも最も大部である当該注釈書の解説を主たる研究課題に据えスタートした。

本研究では、写本外形の特徴、章の区切りに記されるごく短いコロフォンをまず確認した。写本全体は三つに分けて書写されたことが推測される。最初の部分 (写本 A) と最後の部分 (写本 C) が現存し、中間部分 (写本 B) つまり第 2 章から第 4 章中程までを欠く。現在のところ、第 1 章のうち約 20 葉分の解説を終え、試訳を作成した。

定期的に研究会を開催し、『真実義』チベット語訳と敦煌出土漢語断片『俱舎論実義疏』は言うに及ばず、『俱舎論』本論とヤシヨミトラやプールナヴァルダナの注釈文、加えてサンガバドラの『順正理論』やスティ

ラマティの『五蘊論釈』などを参照して、校訂作業を行っている。多くの平行句を同定し、チベット語訳のみでは明確でなかった箇所を精読することができた点は大きな成果と言える。とりわけ『順正理論』の文章を多く回収できたことは重要な文献学上の成果である。

『真実義』サンスクリット写本解説に必要な不可欠であるプールナヴァルダナ注のチベット語訳に、偈や本論対応箇所などを書き込んだノートを作成するなど、ひろくアビダルマ研究者に提供できる関連文献資料を作成した。これは写本解説に付随する重要な基礎的研究の成果である。

3. 現在までの達成度

③ おおむね順調に進展している。

写本の写真複写の精度がよくないことから判読し難い箇所が多々あり、またテキストの難解さ故に解説作業が遅れがちであるが一定程度進展している。

4. 今後の研究の推進方策

写本解説に精通しているハンブルク大学のハルナガ・アイザクソン博士、サールナートの Central University of Higher Tibetan Studies 所属のアニルバン・ダシュ博士を招聘する。両博士の協力を得て、写本解説を大幅に進める予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

① 小谷信千代・秋本勝・福田琢・本庄良文・松田和信・箕浦暁雄「新出梵本『俱舍論安慧疏』(界品) 試訳」『真宗総合研究所 研究紀要』26, pp.21-28, 2008年, 査読無

② 小谷信千代「梵文写本研究の現状と課題」(第60回学術大会パネル発表報告)『印度学仏教学研究』58-2, 2010年, 査読有

〔学会発表〕(計1件)

① 小谷信千代 (パネル代表)・加納和雄・苔米地等流・箕浦暁雄 (「ステイラマティ『俱舍論実義疏』梵文写本解読の現況」)・DASH Shobha Rani・松田和信 (「ガンダーラ語仏教写本を巡るこの一年間の新知見」)・「梵文写本研究の現状と課題」印度学仏教学会第60回学術大会, 2009年9月9日, 大谷大学